

## 第6章 活用

史跡の活用は、その本質的な価値を踏まえ、周辺の環境とともに様々な手法を考え、文化的資産である史跡を核とした地域社会の発展を目指す。

下総国分寺跡 附北下瓦窯跡を中心に、隣接する史跡下総国分尼寺跡を一体とした市川の特徴を活かすことを重要と考え、この章では、史跡の現状と課題を明らかにし、この史跡を有効に活用していくための基本的な方向性と方法を示す。

### 第1節 活用の方向性（現状と課題）

#### 1. 遺跡の周知

史跡は、市の中心地より離れており、現状ではアクセスが悪く、交通手段が限られている。史跡周辺の案内設備も不十分である。

史跡のエリアに比較的近い国分台北側には、市立市川考古博物館及び市立市川歴史博物館（以下：市立博物館）が既に存在しており、本史跡のガイダンス機能の一部を担っている。市立博物館は、市川市の北西部地域の文化財を巡る拠点となっている。

課題：周知を図るためには、史跡の存在、重要性を伝えるルート案内や総合説明板、遺構説明板等現地におけるガイダンスが必要である。

#### 2. 学校教育との連携

次世代を担う市川市の子供たちが、郷土の歴史を伝える史跡を知るとはとても重要なことである。現在、市立博物館においては出前授業や縄文体験学習等を行い、市内の小学校の歴史の授業と連動させた郷土学習として定着させている。

課題：さらなる市内の児童・生徒を対象に、かつて下総国の文化の中核であった下総国分寺跡、下総国分尼寺跡の史跡等を市川ならではの地域教育の教材とした文化の継承、活用への取り組みが必要である。

#### 3. 地域との連携

地域住民が史跡の価値を認識し、親しみを持つことが、史跡の活用をするうえで、必要不可欠であるが、地域住民の関心があまり高くない。所有する土地が古代においてどのような場所であったのか、将来、指定地になる可能性がある等の理解がなされていない。

地域住民やボランティア団体の多様な主体が、史跡下総国分寺跡等に関する学習会、イベントなどを開催できるような支援があまり行われていないのが現状である。

課題：関連性のある遺跡への理解を深めるための様々な場の提供を支援し、地域住民との繋がりを持つように努める。

#### 4. 広域連携

史跡下総国分寺跡 附北下瓦窯跡、史跡下総国分尼寺跡や国府（国庁、国衙、古代道）跡、周辺地域の遺跡に関する調査研究を市、県レベルでそれぞれ行っている。

課題：近隣市、県文化財課、大学研究機関と連携し行うなど、遺跡見学会の実施、調査成果についての情報の共有化や相互協力などを図ることで、新しい情報をわかりやすく地域へ発信する取り組みが必要である。

#### 5. 情報発信

史跡に関する情報の発信は、市川市公式ホームページやパンフレット、広報いちかわ等の既存の媒体を用いて行っている。

課題：SNSなど、情報発信の手段が多様化する中で、史跡周辺にある、和洋女子大学や千葉商科大学、東京医科歯科大学等の大学等教育機関やボランティア団体などにも協力、支援を仰ぎ、史跡の実情に即した有効な媒体の利用や運営の検討を行う必要がある。

## 第2節 活用の方法

史跡下総国分寺跡 附北下瓦窯跡、史跡下総国分尼寺跡等の歴史的文化資産を将来にわたり、確実に継承するため、市民をはじめ史跡周辺の土地所有者、地域ボランティアなどと連携し、多様な主体での活用を広げ、効果的な活用を図る。

### 1. 遺跡の周知を図るために

#### ①史跡までのルート案内、アクセスの改善

楽しく、わかりやすく周辺史跡を巡れるように、道の駅からのインフォメーションの提供や、巡りやすさを配慮したサイン計画を行い、各史跡の全貌を伝える案内板、解説板の設置等、様々な方法で目的地への案内をスムーズに行えるよう取り組んで行く。

#### ②調査・研究の継続・成果の活用

遺跡の確認調査を計画的に行い、遺構の把握と資料の蓄積を図り、周知に努める。遺構が現存しておらず史跡の指定地外でも、可能な範囲で同時代の国府（国庁、国衙、古代道）跡のような重要な記録が残るものと併せ、調査で明らかになった遺構や遺物を現地見学会を通じて公開するなど、国、県はじめ、多くの人との連携を図り、常に新しい史跡の情報を提供できるよう努める。



## 2. 学校との連携について

### ①史跡、出土資料を活用した学習

地域の歴史を知る教材として、市内の学校で活用する副読本「私たちの市川」への継続した遺跡関係資料の掲載を行い、市立博物館による出前授業などによる史跡、出土資料を活用した学習支援を学校と協力して行うなど、郷土の歴史・文化に触れる学校の取り組みを、地域住民等を含めた多様な主体で支援する。

## 3. 地域との連携について

### ①市民主体の活用

市民が主体となって行う史跡巡りの実施、市立博物館や図書館などの社会教育施設や文化施設、地域観光施設などと連携した講座、イベントの開催など、史跡について学び、理解を深めるための史跡や地域の歴史についての学習の場の提供に努める。市民ボランティア団体の街歩き案内の新たなコース作り、散策ガイド作成等、史跡周辺にスポットを当てた取り組みを協働で行う。

### ②コミュニティの活性化

周辺住民が主催する史跡に関連した祭りやイベントの開催をはじめ、遺跡周辺の事業所など周辺施設や農業者から史跡に関連する書籍、グッズの作成提案など協力要請があった場合には、可能な範囲で地域産業の活性化に向け支援する。

#### 回遊ルート例

##### (1) 自然と歴史を感じる

< 約 7.1 km >

・北国分駅→博物館→小塚山→じゅん菜池→国分尼寺跡→国分寺→北下瓦窯跡→(バス)→市川駅

##### (2) 市川の歴史を巡る

< 約 6.6 km >

・市川駅→アイリンクタウン→大門通り→手児奈霊堂→国分寺→北下瓦窯跡  
→下総総社跡→和洋女子大資料館→(国府台駅)→市川駅

##### (3) 国分寺造営の歴史を辿る

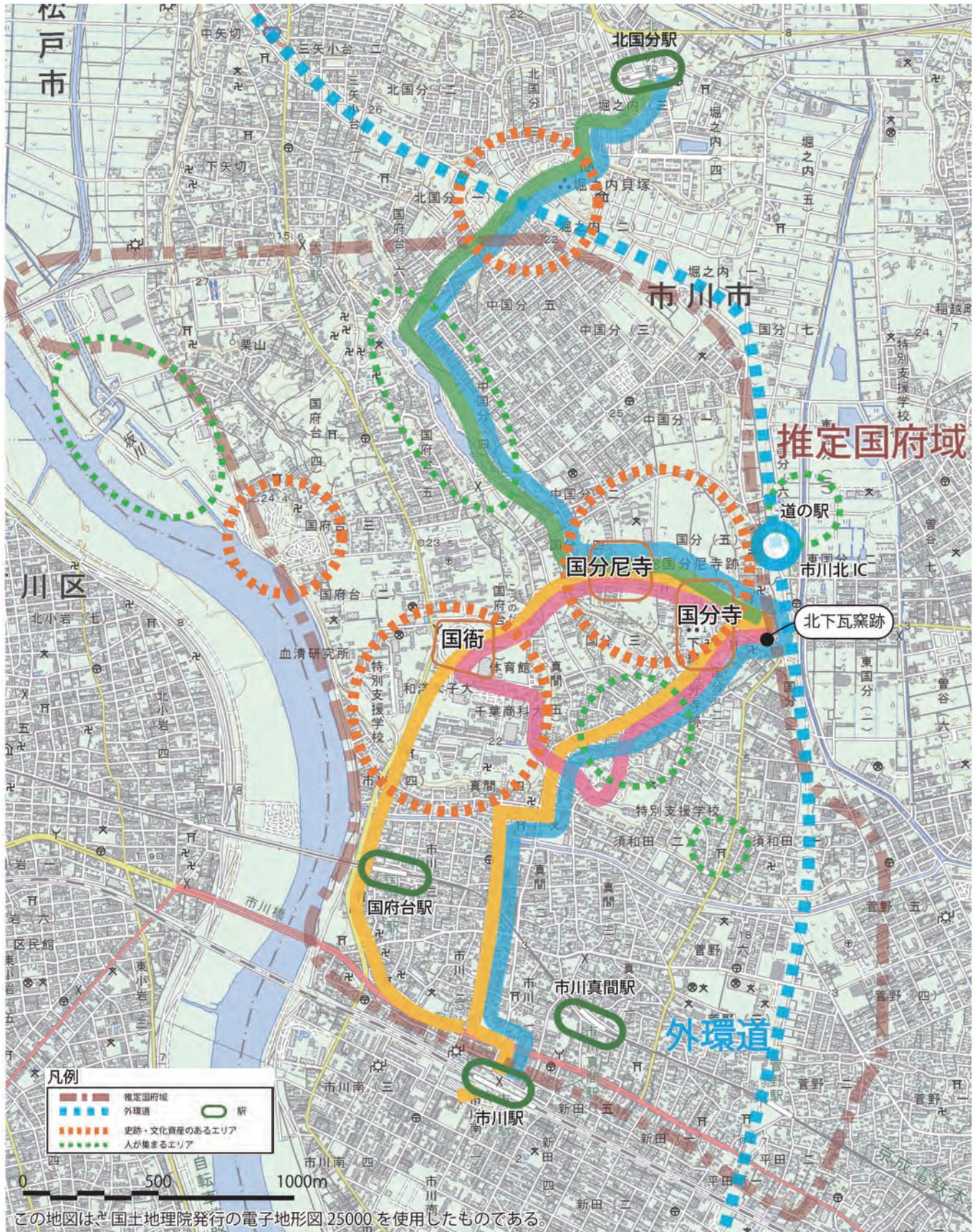
< 約 9.6 km >

・市川駅→バス→道の駅→北下瓦窯跡→国分寺→国分尼寺跡→下総総社跡→須和田公園→北下瓦窯跡→バス→市川駅

##### (4) 市川の歴史 縦断コース

< 約 7.5 km >

・市川駅→大門通り→手児奈霊堂→須和田公園→北下瓦窯跡→国分寺→国分尼寺跡→じゅん菜池→小塚山→博物館  
→北国分駅



第 33 図 史跡周辺要素マップ

## 4. 広域連携を図るために

---

### ①大学・研究機関との共同

---

地域にある大学との連携を図り、遺跡を包蔵するキャンパスの特質を活かした講義や、ゼミ、サークルの研究対象とするなどの様々な活用の提案があった際には支援を行う。また、学生だけでなく、社会人を対象としたシンポジウムや学習会などを共同で企画、開催するなど学術的価値の最新の情報、研究などの発表に繋がるよう働きかける。

### ②広域連携と観光

---

国分寺跡・国分尼寺跡・国府・郡家等の遺跡を保有する他の市町村との連携を深め、国分寺サミット等に参加し情報交換を行う等、広域でのネットワーク化に努める。また、その保存に取り組む人々との交流を推進し、幅広い史跡の活用を支援する。

市内外から多様な人々が訪れ、誰もが楽しく史跡巡りができるような観光拠点として、関連部署や機関と連携し活用を広げていく。

## 5. 情報発信について

---

### ①情報発信手法

---

広報いちかわや市川市公式Webだけでなく、あらゆる世代やオリンピックなどを想定した外国人に対応する説明板やパンフレット、Web作成に向けて、地元の理解と支援を得て現地への配置、発信する等、史跡の全容を伝える情報発信に取り組んでいく。史跡の存在をICT技術（AR）などの積極的で有効な活用を図るよう努める。